

重点目標	【分かる、できる、楽しい授業がある学校】 学習指導	
現 状	- 令和5年度県学習状況調査で、4年生は3教科中2教科で、5年生は4教科中3教科で、6年生は全4教科で全県平均を上回った。4・5年国語が若干下回った。 - 同質問紙調査「話し合う活動への取り組み」肯定的回答94.9%で前年比+2.4%、「話し合う活動を通した考えの広がり深まり」肯定的回答84.3%で前年比-2.0%であった。	
具体的な目標	- 県学習状況調査の平均通過率を全学年県平均を上回るようにする。 - 質問紙調査で「自分の考えを発表する機会がある」「話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答90%以上を目指す。	P
目標達成のための方策	- 初任者研修を核として、教師が学び合う校内研究推進体制の確立。 - 生徒指導と特別支援教育の視点で授業を構成。 - 探究型授業の基本プロセスを意識した授業マネジメントの機能化。 - 諸調査・テスト等を効果的に活用し、学習の定着状況を把握。 「自学のやり方」を提示し、家庭学習で基礎的・基本的を定着。	
具 体 的 な 取 組 状 況	- 特別支援と生徒指導の視点から、全員「参加」の授業づくりを目指し、ハンドサインと話型でつなぐ授業で校内研究を推進した。 - 授業改善に向け、4学級で3回の授業研究会を実施。事後研究会では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から児童の姿で授業を検証した。また、授業研究会以外の職員が授業者となり、2月までに「授業を見合う会」を実施した。 - 教科を絞らず、キーワード「聞き合い」の下、自ら発信して能動的に聞くことを手立てとして学びの深化に努めた。 - 教師一人一人の研修カードを作成し、自身の学びを可視化した。 6年生は72名を3学級編成として少人数学習を実施して、他学年はT T指導等をポイント的に活用して学力向上に努めた。	
達 成 状 況	- 県学習状況調査（R6年12月実施） []内の+-は県平均比 4年生 国語70.4[+0.5] 社会 なし 算数72.0[+1.1] 理科80.3[+6.8] 5年生 国語73.6[-3.4] 社会72.1[-1.9] 算数65.0[-3.3] 理科80.3[+2.9] 6年生 国語83.9[+4.1] 社会75.4[+1.3] 算数65.4[-2.0] 理科73.9[-0.6] - 主体的で対話的な学びの具現（質問紙調査の肯定的回答） 「話し合う活動に進んで取り組んでいる」 4年生91.1%[-1.6] 5年生88.5%[-3.4] 6年生95.6%[+4.4] 「話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりしている」 4年生91.1%[+5.1] 5年生80.0%[-5.9] 6年生92.6%[+4.7]	D

自己評価	B	・ 授業研究会の事後研究会を、ワークショップ形式で教師自身が学び合いながら改善案を検討、授業改善を継続した。 ・ 「授業を見合う会」により、多様な手立てを学び合い、初期層教員の授業力の向上や指導技術の継承ができた。 ・ 「聞き合い」を合い言葉に、教師と児童が能動的に聞き合うことで、より深い学びのあり方が実感できた。 ・ 主体的で深い学び合いを充実させるために、教師のコーディネート力のさらなる向上に努めたい。 ・ 初期層教員は、ベテランと組み合わせたり、年齢の近いサポーターを設定したりして、不安を解消するように努めてきた。この傾向が、年々加速するため、OJTのさらなる充実に努めたい。	C
↑ 評価基準 ↓		A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	・ 目標に照らすと、意欲の面で達成できているが、教科の通過率でみると努力の余地がある。 ・ 6年生が自覚を持って取り組んできていることが伝わる。5年生は伸びしろがあるので、意欲を高めていけるようにしたい。 ・ 初期層教員が増えているので、ベテランの技を継承できるようにしてほしい。ベテランとの組み合わせによるOJTで、初期層教員の成長を期待したい。	A
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策		・ 情意面で成果が現れてきているため、生徒指導と特別支援教育の視点で授業を構成していくことを継続し、児童がより一層達成感を味わえる学習指導に努めたい。 ・ 教職員は、若い世代が増えて熟年層が減る傾向が続くため、教育力向上のために、より一層OJTを機能させるような職員配置・組み合わせに努めたい。	